

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390600126		
法人名	医療法人 生寿会		
事業所名	グループホーム新栄		
所在地	愛知県名古屋市中区新栄三丁目7番12号		
自己評価作成日	令和元年2月20日	評価結果市町村受理日	令和2年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigyo_syoCd=2390600126-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和2年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は法人理念である【みんなで創るやさしい介護ひとり一人を大切に】の考えのもと1ユニットのメリットを活かし、ご利用者ひとり一人にあったきめ細やかなサービスの提供を行うべく日々努力しています。ご利用者、ご家族との関係性を築くことに重点を置きながら楽しく充実した毎日を暮していただけるよう暮らしのサポートを行っています。地域とのつながりでは近隣に神社や小学校があり神社の祭事や学校行事への参加を積極的に行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、同じ建物内に小規模多機能事業所を併設して運営している。職員は併設事業所と兼務で勤務していることもあり、日常的な支援については、事業所間で連携した支援が行われている。利用者の中には、小規模多機能からグループホームに生活場所を移行した方も多く、利用者や家族にとっては、同じ職員による支援が行われていることで、利用者の生活場所を円滑に移行することができる利点にもつながっている。運営母体が医療機関であることで、医療面での柔軟な支援が行われており、職員による受診支援も含めた、利用者の健康状態に合わせた支援が行われている。また、今年度からのホームの新たな取り組みとして、ホームの職員配置を手厚くしており、ホームにおける1日の配置人数を余裕のある人数に増員している。利用者へのより寄り添った支援の実現にもつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念をフロアへ掲示するとともに、全職員がひとり一人を大切にという気持ちで接し、入居者が安心できる生活の場になるよう心掛け実践している。	運営法人の基本理念をホームの支援の基本と考えており、リビングのキッチンの壁面に掲示する等、日常的に職員間で理念を意識するような働きかけにつなげている。また、職員が目標をつくる取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議で事業所の活動報告やいきいき支援センターや民生委員を中心に地域情報を得ている。地域行事に参加し地域住民との交流機会を設けている。今年度は地域の盆踊り、餅つき大会、神社のお祭りに参加した。	地域の方との交流については、地域で行われている祭事や小学校の運動会等にホームから参加する機会をつくり、交流につなげている。また、併設事業所と連携しながら、ボランティアの方による合同の行事が行われている。	当ホームは、職員が小規模多機能事と兼務する等、事業所で密な連携が行われていることもあるため、併設事業所とも連携しながら、地域の方との交流が増えることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議のなかで地域課題を伺い情報収集し事業所として関わることができるか考えてはいるが地域の人々へ向けた活動機会は持っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議のなかで地域の催しやイベントについて得た情報を地域住民とのつながりや入居者の外出支援へとつなげている。また日々の活動報告や入居者状況を報告している。	会議は、併設事業所と連携して開催しており、出席者に両事業所の運営状況等の報告が行われている。会議の際には、地域包括支援センター職員の参加が得られており、情報交換等が行われている。	開催時間が夕方でもあることで、会議に家族の参加が得られていない状況でもある。会議への参加が得られるように、家族への継続的な働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	事業所単体だけでなく、隣接するいきいき支援センターと日頃から連絡を取り、サービス内容や運営に関するお知らせ、相談を行いながら協力関係を築くようにしている。	市担当部署との情報交換や研修会等への参加については、関連事業所を通じて行われており、ホームの運営への反映につなげている。また、地域包括支援センターとも、関連事業所を通じた情報交換が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	防犯を含め安全を確保する理由により、玄関の施錠は行っている。施錠によって生じる圧迫された空間での生活や精神的ストレスを含め、常に職員が意識するようにしている。身体拘束禁止委員会の毎月開催、委員による身体拘束の理解周知に努めている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者が日常的に関連事業所に移動する時間をつくる等、圧迫感のない生活につなげる取り組みが行われている。また、毎月の会議を通じた身体拘束に関する現状の検討や定期的な職員研修が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止委員を中心に身体拘束や虐待に対する危険性等について常に意識できるよう周知に努めている。ミーティング時に毎回身体拘束のなかで虐待防止を含め議題にあげ意識する機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用する方がおり、制度を理解するための勉強会を行っている。また、職員が認知症の方の意思や権利を日頃から代弁する役割を担っていることを伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結や解約、改定時についての説明や料金等は、見学を交えて行っている。介護についての相談を受けながら、家族の不安や疑問点を把握し説明できるよう確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談窓口は、管理者が担当している。入居者や入居者家族からの要望について迅速に改善できるよう日々の申し送り時やミーティング時に話し合っている。またユーザー評価を実施している。	関連事業所と合同で行われている行事に家族の参加が得られており、交流の機会がつけられている。ホームで市のユーザー評価を実施しており、利用者や家族からの要望等の把握につなげている。また、毎月の利用者毎の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に対すること等についてはミーティング時及び日々の業務時に管理者と職員とのコミュニケーションの中で要望の聞き取りをしている。	毎月の職員会議を関連事業所と合同で実施しており、職員からの意見等を管理者が把握し、ホームの運営への反映につなげている。現状、全員の職員が常勤職員であることで、日常的にも意見交換を行い、職員の意見等から柔軟な対応につなげている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	毎月勤務管理、実績管理し勤務態度の把握をしている。また、職員から意見を聞きながら、柔軟に面談や話しやすい機会を作っている。研修や勉強会の開催をして、職員の知識向上ややりがい向上に向けた取り組みをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内研修ならびにEラーニング研修を活用し研修機会を設けている。また法人内外の研修案内を周知し参加希望をとっている。職員レベルの把握と向上に向けたシートを使用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市内のグループホーム管理者と連携を図るため定期的に連絡をとっている。その際に意見交換、相談などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前に入居者本人と家族に面談して、意向の確認や要望、不安を確認している。そこから生活ニーズの把握をしてケア提供していけるよう援助している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始前に家族面談をしている。意向の確認をしながら、要望や不安の把握を行っている。迅速に対応することや密に連絡、報告することで関係構築につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス導入前にアセスメントの段階で介護計画書を作成し、家族と意向の確認やサービスについての検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者本人の能力の把握やできることに着目し、入居者に教えてもらう関係を築いている。具体的には、テーブル拭きやベッドメイク、コップ洗いや洗濯等をして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族との関係を切らないよう繋ぐ支援をしている。月1回のお便りで日々の様子をお伝えしたり、定期的な家族との外出や訪問で、触れ合える機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者一人ひとり大切にしてきた習慣を壊さない支援をしている。近所の方の定期訪問や親戚の来訪など、その人が大切にしていた関わりについて、継続できるよう支援している。	関連事業所に利用者の友人、知人が利用している際には、お互いに交流する機会がつけられる等、馴染みの方との関係継続にもつながっている。家族との外出も行われており、喫茶や外食をはじめ、利用者の中には自宅に戻り、家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	可能な限り食堂に集まっていたくよう促し入居者同士コミュニケーションを取る場の提供を行っている。また入居者が他者の援助をする場面では、職員が見守りをして必要以上の援助をしないこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	病状変化により契約終了された方に対し、変わられた新たな施設へ伺い、様子確認を行うとともに本人・家族が新しい施設で安心して過ごせるよう相談援助をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前のアセスメント時に入居者の希望や生活歴を元に意向確認を行っている。本人が意思確認困難な場合は生活歴や性格などを家族に伺い検討を行っている。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者に関する意向等の把握につなげている。また、毎月の会議を通じたカンファレンスを実施しており、利用者に関する意向等を検討し、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴やなじみの暮らしについて、初回アセスメント時に行い把握に努めている。その後も随時、本人や家族からの情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメント表をもとに本人のできることで、できないことの把握をしている。身体状況を把握したうえで援助方法の検討に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当職員を中心に毎月モニタリングを実施している。本人、家族と相談しながら計画の内容変更を行っている。ミーティング時にも議題にあげ話し合っている。	介護計画を3か月で見直しが行われており、利用者の変化等に合わせた見直しにつなげている。担当職員も参加しながら毎月のモニタリングを実施している。また、日常の記録については、電子記録も活用しながら細かな記録に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録は、電子カルテにて介護・医療との連携を図るため情報共有している。また支援経過記録にて時系列で本人の心身の状態把握に努め、ケアプランの見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ニーズの変化に柔軟に対応できるよう介護と医療の連携を図っている。また生活支援においても家族の協力を得ながら、チームケアが行えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議において、地域行事の確認をしている。地域行事(盆踊り、もちつき大会等)に参加し、入居者の暮らしの中で外出機会を持ち、楽しみの場の提供と、地域住民との交流や子供たちとふれあう機会をつくっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	自施設系列の病院があり、月2回の訪問診療がある。家族の希望により、かかりつけ医の選択をしていただいている。隣設しているクリニックとも連携し医療面での支援を行っている。	関連の医療機関との医療面での定期的及び随時の連携が行われていることで、利用者の健康状態に合わせた柔軟な支援が行われている。受診支援がについても、ホーム職員による対応も行われている。また、関連事業所の看護師による支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日頃より入居者の身体観察を行い、特変や普段と様子が異なるときは、看護師との連携をしている。看護師に相談し適切な医療が受けられる支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	自施設の系列病院とは、電子カルテにて入居者の状態や身体状況等の情報共有をしている。早期に退院できるよう日頃から情報把握をし、受け入れ体制の構築に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時において、重度化や延命に対する意向の確認を行っており、お体の状態が変わった時にも再度確認を行っている。また主治医との連携も密にし、状況により家族の気持ちにも配慮できるようその都度説明できる体制作りにも努めている。	身体状態が重い方も生活を継続できるような支援が行われており、看取り支援についても前向きな取り組みが行われている。関連事業所に老健があることで、次の生活場所への移行支援も含めて、利用者や家族の意向等に合わせた柔軟な支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	日頃より緊急時や事故の対応の確認を行っている。職員は救命の講習を受け備えている。事故に対しては、ヒヤリハットを通して再発防止に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の消防、避難訓練を行っている。入居者の避難経路を確認していくことで、災害時に対応できるよう備えている。防災委員を選定し日頃より災害に対する意識付けを行うように努めている。	年2回の避難訓練は、新栄地区の関連事業所との合同で実施しており、事業所間で連携した取り組みが行われている。通報装置が複雑な仕組みになっていることで、職員への周知が行われている。また、関連事業所と合同で備蓄品の確保が行われている。	1ユニットのグループホームであるが、利用者が3回と4階のフロアに分かれて生活していることで、非常時の避難誘導に困難が予測される。継続した事業所間で連携した取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ミーティング時に言葉掛けや接し方について話し合ったり、職員同士日々の業務の中で声を掛け合いプライバシーへの配慮や一人ひとりの尊厳を大切にしている。	職員が利用者と同じ目線で接するように、利用者への言葉遣いも含めて、管理者からも職員への働きかけ等が行われている。対応に配慮が必要な利用者への言葉遣い等についても、カンファレンス等で検討し、職員への注意喚起や意識向上にもつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の暮らしの中で入浴、食事、体操、レクリエーション等では意思確認しながら、自己選択、自己決定できる機会を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の体調に合わせて、自分のペースで生活できるよう支援している。静養の時間や本人の興味や嗜好にあわせ活動できるよう生活支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣装にこだわりのある方や時計に気を使う方、身だしなみやおしゃれがいつまでも楽しめるよう言葉掛けや見守り支援している。毎月2日間、訪問理美容を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	隣接施設と協力のもと食事提供をしている。準備や片付けは、大半は職員が行っているが、テーブル拭き等できることはして頂いている。また食事が楽しめるよう利用者と献立の確認をし話題提供しながら雰囲気作りをしている。調理の場の提供としておやつ作りを実施している。	食事については、外部業者の厨房から提供されており、厨房とも連携しながら利用者の身体状態に合わせた食事形態の提供が行われている。また、ホームのキッチンを活用した定期的なおやつ作りが行われており、利用者も参加する機会がつけられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量を記録するとともに水分摂取のタイミングに配慮しながら健康管理を行っている。食事形態等は、透析食や刻み食、ミキサー食、とろみ食等を提供可能としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、一人ひとり個別にて、口腔ケアを実施している。状況に応じ歯科受診の勧めを行っている。歯科往診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄記録をもとに、本人排泄間隔の把握に努めている。排泄パターンに応じて、トイレ誘導や排泄介助をしている。おむつの必要性を常に考え離脱できるようミーティング時に話し合い支援している。	利用者一人ひとりの排泄記録を残し、日常的に職員間で情報交換を行いながら、利用者に合わせて排泄支援につなげている。トイレでの排泄を基本に、カンファレンスによる検討や薬剤師とも連携しながら排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取量が少ない方に関しては、促しや言葉掛けを行っている。毎日の体操のなかで腹部マッサージ運動を行い自然排便できるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	本人の体調、要望に合わせてながら、入浴日の検討を行っている。希望を聞き予定を変更したり、体調により、翌日に入浴できるよう支援するなど柔軟に対応している。体調により入浴不可の日は清拭を行っている。	月曜日から土曜日の間で利用者は1日おきに入浴している。設置されている浴槽が特殊浴槽であることで、身体状態が重い方についても浴槽での入浴支援が行われている。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	食後の時間がゆったりとすごせるよう支援している。体調に応じて、いつでも休息できるよう支援している。就寝時間や個々の就寝習慣の把握をして消灯時間に捉われず柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの薬について、処方箋や薬剤情報など隣接薬局の薬剤師より情報を得て把握している。副作用については、十分伝達し症状の変化に早期対応できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの嗜好や興味のある余興活動の時間提供をしている。本人のできることに着目し、生活のなかに役割が持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	季節感のある外出行事(花見、参拝)を行っている。また、散歩や買い物、地域行事の参加ができるよう定期的に外出レクの実施をしている。また家族との連携により、外出を楽しまれている。	季節や天候等にも合わせた外出支援の他にも、関連事業所で行事が行われる際には、ホームからも利用者も参加する機会がつけられている。季節に合わせた外出や地域で行われている行事等に出かける取り組みが行われている。	職員配置を手厚くすることができたことで、利用者への柔軟な支援にもつながると思われる。外出の機会が限られた範囲となっていることもあるため、今後に向けた外出の機会が増える取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	神社参拝時に賽銭を出したり、買い物レクの際は入居者自身で支払いを行いお金を使う感覚を意識して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望により自宅に電話を掛けたり、家族からの電話に出られるよう繋いだりしている。また、手紙を書かれるかたの郵送を支援したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用部を常に清潔に保つとともに整頓し、利用者が過ごしやすい環境整備に努めている。温度、湿度を常にチェックし快適な空間を心掛けている。フロア内に入居者の写真を掲示したり、季節の飾りつけをし季節感を出している。	利用者が日中の時間を明るい雰囲気で行うことができるように、採光に工夫が行われている。季節に合わせた飾り付けや写真の掲示を行う等、雰囲気づくりも行われている。また、清掃専門の職員を配置していることで、日常的に清潔な空間が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間において、気の合った利用者同士が話がしやすいよう席の配置に配慮している。またリビングには、季節感のあるレクリエーション作品を飾ったり、ソファを置きいつでも寛げる空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	趣味の作品や思い出の品、写真など本人の好きな物に囲まれて、安心して生活できるよう家族に説明や相談をして配置している。入口になじみの目印を置き、本人が混乱しないよう配慮している。	居室には、利用者がや家族の意向等に合わせた、使い慣れた家具類や馴染みのある物等の持ち込みが行われている。また、居室については、二つのフロアに配置されていることで、居室毎に広さや雰囲気が異なっていることも特徴となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	本人の能力や望みを考え、安全に行動できるよう手摺り設置や段差をなくすなど自立度の高い生活を送ることができるようにしている。		